

IV-32

童話の読書前後のイメージ変化に関する国際比較分析

近畿大学理工学部 正 員 佐佐木 綱
山梨大学工学部 正 員 西井 和夫
神戸大学工学部 正 員 竹林 幹雄
○山梨大学大学院 学生員 三浦 啓江

1. はじめに

これまで風土分析の中では、人々のイメージ意識の連想の特徴を心理的アプローチ（制限連想法）によって構造的にとらえようとする試みや地域イメージ形成を地物のイメージ類似度尺度のモデル化（LOGMAP）により表現する試みがなされてきた。また、その題材としては、文学作品であったり、地域に強く根ざした民話であったり、さらには民話分析の原点とも言えるべき童話が用いられてきた。本研究は、このような研究の延長線上に位置する。すなわち従来より筆者らによって提案されているマルコフ連鎖モデルを用いて、アンデルセン童話の「親指姫」を題材として、この読書前後のイメージ変化について国際調査を行うことを目的としている。以下では、今夏の国際ワークショップにて行われたイメージ調査データの一部として、日本、デンマーク、英国の3ヶ国のデータによる比較検討結果の概要を述べる。

2. 分析結果の概要

図1及び図2は、甲府における読書前後のイメージ階層図である。縦軸はウェイト、矢印はその刺激語から想起される刺激語を示す。

これらイメージ階層図は、読書前でウェイトの高いほうから4グループに分類した。一方 読書後では3グループに大別した。すなわち グループIには、読書を通じて強く物語性や主題が意識された少女、ツバメ、結婚、王子が含まれる。IIグループには、Iグループを支え物語を構成する上で重要と思われる翼や宮殿が含まれる。グループIIIは、ウェイトに見るかぎりでは読書前後で大きな変化は見られなかったが、読書後においてグループI、グループIIに連結する語が多くなっている。これは、童話の読書前後において連想が物語性を追従するために、その結果として刺激語が想起されやすくなったといえる。

次に、デンマークの階層図（読書前図3、読書後図4）と比較すると、読書前に関しては、ウェイトの高い太陽、風は、甲府のときと同じ傾向といえるが、空についてはウェイトが6であり、ややイメージウェイトは小さく評価されている。全体の構成としては、自然地物の太陽、風、空からなる第Iグループ、読書後でイメージウェイトの上昇が見られる少女、結婚、王子等の第IIグループ、そしてツバメを中心としたグループIII、さらに森への連想パターンを表わすグループIVの4つから成っている。さらに、刺激語間の連想パターンを表わす矢印が全体的に少なく、ウェイトの小さい刺激語からウェイトの大きな刺激語への連想も少ないことが特徴的である。

読書後のイメージ階層の全体構造は、基本的には図2の甲府における読書後に類似している。一方、甲府の結果と異なる点は、第Iグループの王子のウェイトが小さいこと、そして、連想パターン（図中の矢印）に注目するとき、結婚やツバメに関連する連想の広がりやや限定

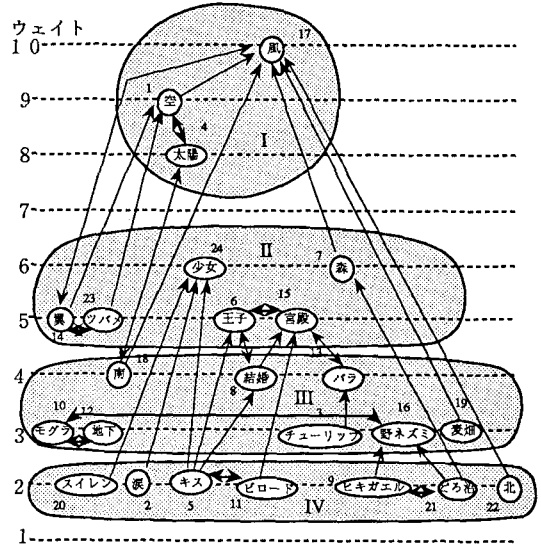


図1 読書前イメージ階層図（甲府）

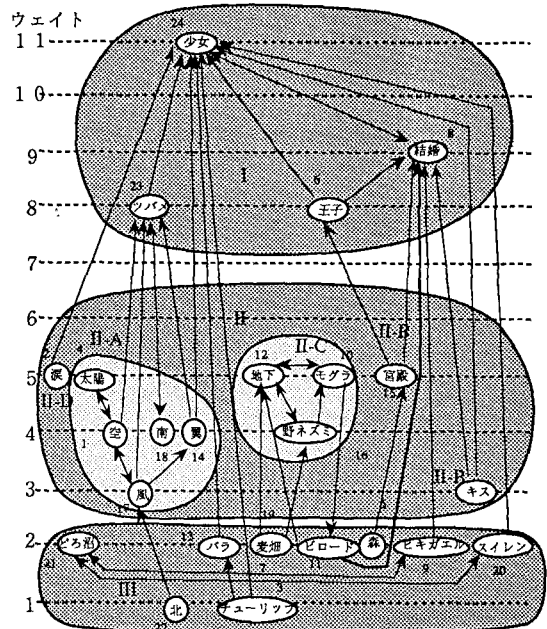


図2 読書後イメージ階層図（甲府）

されるということである。

さらに、英国の階層図(読書前図5、読書後図6)と比較すると、読書前では、甲府の読書前のようにウェイトの違いによるグループ化は形成されておらず、正規化したウェイトのレンジがウェイト2から8までと狭い。これは、イメージウェイトのばらつきが小さいことを示し、24語の刺激語間での連想パターンの中で突出してイメージの強い刺激語が少ないことを意味している。図6では、甲府の読書後と比較して、第1グループの中で王子のウェイトの低さが目立つ。同じく、宮殿についても連想パターンは王子と少女との両者へ矢印が入っていることは特徴的であるがウェイトは低いままである。一方、太陽、空などは読書後においても高いウェイトを持っている。

ウェイト

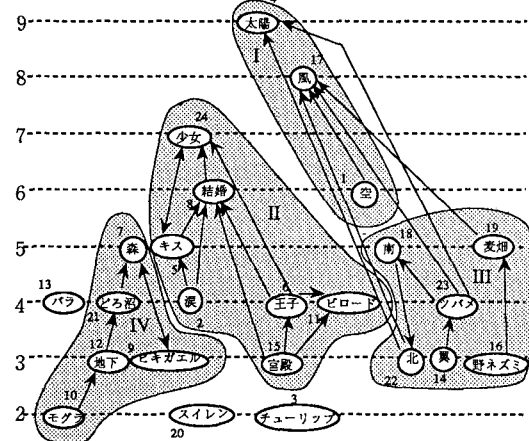


図3 読書前イメージ階層図(デンマーク)

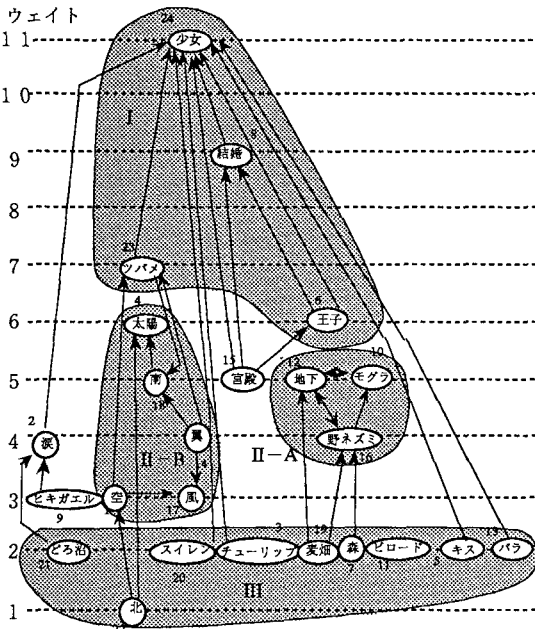


図4 読書後イメージ階層図(デンマーク)

3. おわりに

本分析結果からは、各国に共通して読書後における物語性、主題の獲得によるイメージウェイトのpositiveな効果、連想パターンの広がり効果を読み取ることができた。一方、甲府の結果をベースとして比較したところ、特に読書前において英国のイメージ階層構造はイメージウェイトのばらつきが狭いこと、またデンマークにおいても連想パターンに関して異なる結果となることがわかった。なお、その他の詳細については講演時に発表する。

4. 参考文献

1) 佐佐木・堀田・竹林(1989)文学を利用した地域計画に関する考察, 2) 西井・竹林・三浦(1993)イメージ分析におけるLOGMAPの適用性に関する研究, 3) 西井・竹林・J. Horstmann(1993) LOGMAPによる童話の読書前後のイメージ変化の分析

ウェイト

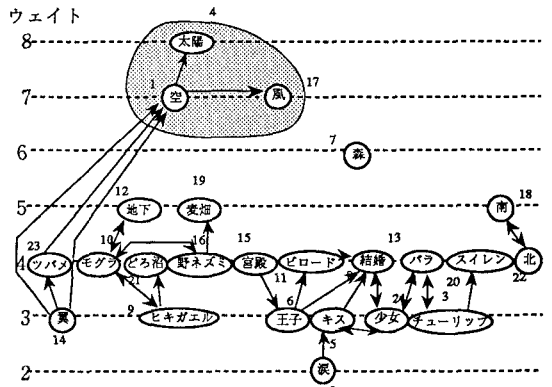


図5 読書前イメージ階層図(英国)

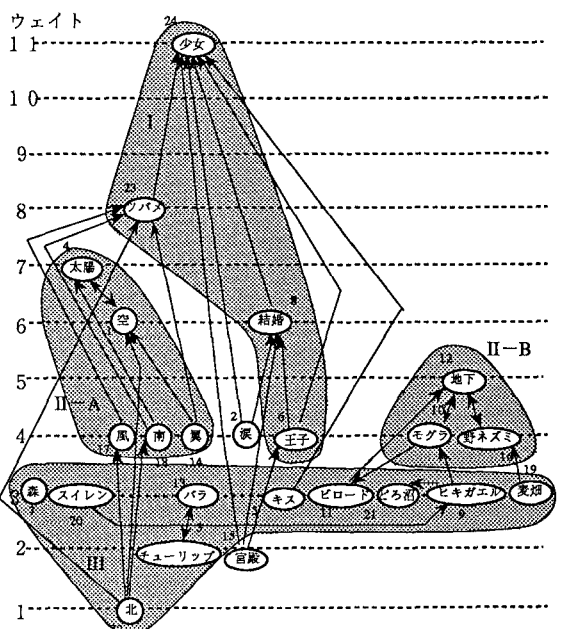


図6 読書後イメージ階層図(英国)